

平成24年度 長野県社会教育委員会議の概要

(平成24年 6月11日開催)

文化財・生涯学習課

【意見交換の内容】

1 テーマ「社会教育の推進について～地域コミュニティの再生～」

2 事例発表 「『地域大家族社会』づくりの取組」

発表者 松本市蟻ヶ崎西町会 宅幼老所「愛ぶんぶん」代表 福島昭子 氏

公民館での指導者養成講座受講をきっかけに、「自助」「共助」「公助」の考え方に基づく、町会での男女共同参画や弁当づくり、宅幼老所の運営 等、持続可能な社会づくりを進めてきた取組を発表。

3 委員からの主な意見

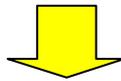
- ・ 学びの循環を図り、地域課題の解決にあたる拠点としての公民館の役割は大きい。県公民館運営協議会は、平成24年3月に、これからの公民館のあり方を提言にまとめたところ。

信州の公民館 2つの基本

① 公民館は、最も身近で自由に学べるところ

② 公民館は、学習と実践を通して、みんなの地域をつくっていくところ

- ・ 生涯学習の振興を図る立場から、高齢者の生きがいづくり（居場所・健康・社会参加）を推進するとともに、社会教育施設の活動に参加できない人に対して、わかりやすい情報提供を含めたアプローチが今後重要になってくる。
- ・ 活力あるコミュニティの形成につながるリーダーの養成や、学校・家庭・地域を結びつけるコーディネータ等の人材育成が必要である。
- ・ 子ども達の生活習慣の確立を図る「通学合宿」を大事に位置づけるとともに、子育ての悩みを相談できる窓口等の広報を、行政にお願いしたい。 等

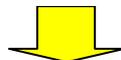


【社会教育推進のための今後の取組】

○情報提供（各種研修会、実践事例集による先進的な事例の紹介等）

○人材育成（リーダーやコーディネータ、後継者等）

○拠点づくり（居場所づくりや「通学合宿」による教育課題への対応等）



新たな総合5か年計画、第2次教育振興基本計画に反映

平成24年度社会教育委員会議出席者名簿

【社会教育委員】

小笠原 憲子	NPO法人ながの子どもの城いきいきプロジェクト
小出 勉	長野県社会教育委員連絡協議会 会長
塩澤 美登理	長野県連合婦人会 常務理事
鈴木 道郎	信州伊那谷キャンパーズビレッジ 代表
武田 登	長野県公民館運営協議会 顧問
中島 秀吉	長野市立保科小学校 校長
谷塚 光典	信州大学教育学部准教授

【事例発表者】

福島 昭子	松本市蟻ヶ崎西町会 宅幼老所「愛ぶんぶん」代表
-------	-------------------------

【オブザーバ】

加藤副知事

【教育委員会事務局】

山口教育長

阿部文化財・生涯学習課長 ほか

長野県生涯学習審議会答申の概要（平成21年10月）

<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○科学技術の高度化や就業構造の変化 ○急速な少子高齢社会の進行 ○「団塊の世代」の大量退職 ○中山間地・農村地域の過疎化 ○中心市街地商店街の衰退 ○家庭・地域の教育力の低下等 	<p>【観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会の変化や課題に対応した生涯学習活動の推進 ○学んだ成果を地域に生かし、家庭・地域の教育力の向上につながる環境づくり 	<p>【国・県の動向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育基本法改正 ○中央教育審議会答申 ○長野県中期総合計画 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じた学びや育ちの環境づくり ○長野県教育振興基本計画 <ul style="list-style-type: none"> ・社会全体で共に育み共に学ぶ教育の推進
--	--	--

新しい時代にふさわしい長野県の生涯学習振興のあり方について

これからの生涯学習振興の基本的方向

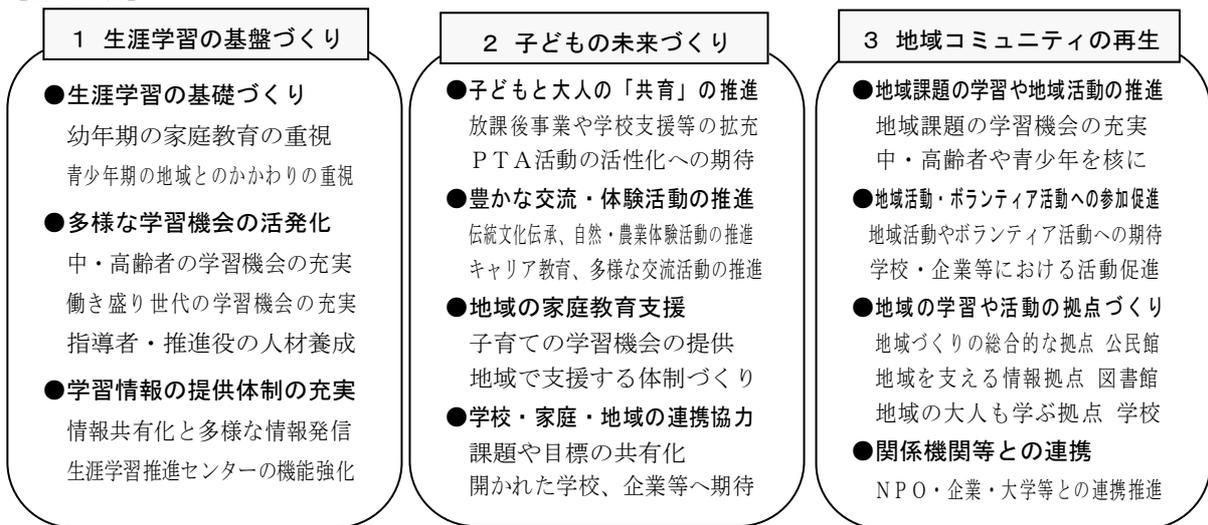
【基本目標】 学びの絆で地域力を高める生涯学習の推進

～人や地域とかがわって学び、学びの成果を人や地域に生かす生涯学習～

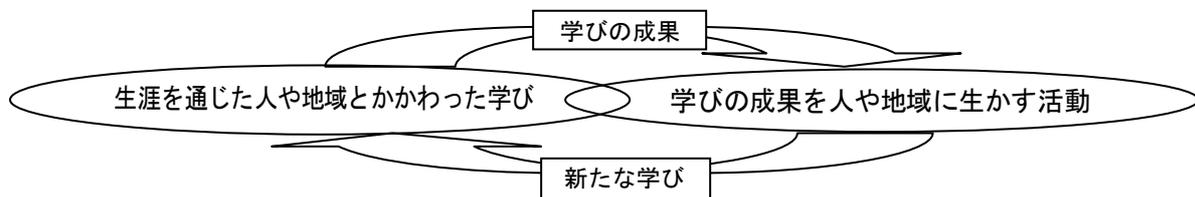
【基本的視点】

- 1 社会の変化に対応した生涯学習の基盤づくりと多様な学習機会の活発化を図る。
- 2 学校・家庭・地域が連携して家庭・地域の教育力の向上に取り組む。
- 3 地域課題を学び、課題解決にむけて住民が主体となった地域活動を推進する。

【施策の柱】



【めざす姿】《 学びが循環する社会の創造 》



【重点項目】 「つ・な・が・り」で築く長野県の生涯学習

「つ」：つなぎ役と推進役の人づくり	➡ コーディネーター・指導者の養成と活用
「な」：長野の魅力や次世代へ継承	➡ 地域の「文化力」を再発見する活動の推進 豊かな自然を生かした体験活動の推進
「が」：学習や地域活動の拠点づくり	➡ 全国最多の公民館を活用した地域活動の推進
「り」：利便性の向上と連携・協働の推進	➡ ICT活用、民間・大学等との連携・協働の推進

※ 「地域力」・・・住民等が自立しつつ協働して、地域課題を解決したり、地域の価値を創造したりする力
 ※ 「文化力」・・・文化芸術のもつ「人を感動させ魅了する力」や「地域の魅力や価値を高める力」等（『長野県文化芸術振興指針』の定義）